

問3 問2で「大きく拡大した」「ある程度拡大した」と答えた団体におうかがいします。自由裁量が拡大してよかったのはどのようなことですか。あるいは、どのような点で、自由裁量が拡大したと感じますか。（複数回答可）

27団体中

- | | |
|---------------------------------|------------|
| ア 各府省の枠にとらわれず、自主的に事業を選択できたこと。 | 16団体 (59%) |
| イ 地域の実情に応じて優先箇所の選択や重点政策が行えたこと。 | 15団体 (56%) |
| ウ 効率的又は効果的に財源を活用できるようになったこと。 | 7団体 (26%) |
| エ 従来の補助金・交付金に比べ、手続が簡素化・簡略化したこと。 | 5団体 (19%) |
| オ その他 | 4団体 (15%) |

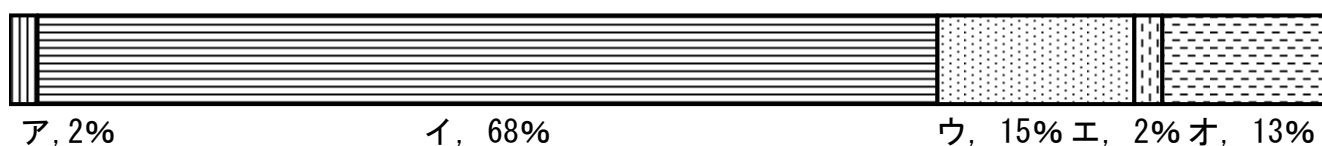
問4 問2で「拡大しなかった」と答えた団体におうかがいします。どのようなことが、自由裁量の拡大を妨げていますか。

主な回答：

- ・ 必要な総額が確保されなかったこと
- ・ 対象事業や配分基準等が当初予算編成時期に明らかでなかったこと
- ・ 対象事業が従来の補助金・交付金に限定されていること
- ・ 国への事業計画の提出や事後チェックなどの関与が残っていること
- ・ 予算の移し替えや事業間流用の手続き面の制約 など

問5 地域自主戦略交付金は各府省の枠にとらわれない、地域の実情に即した事業の的確かつ効率的な実施を図るものですが、本交付金の取組を評価しますか。

- | | | |
|-----------|------------|------------|
| ア 大いに評価する | イ ある程度評価する | ウ あまり評価しない |
| エ 全く評価しない | オ その他 | |



その他：評価を差し控えたい又は無回答

問6 地域自主戦略交付金の趣旨を活かして活用した事例（例えば、従来の国庫補助金等と比べて重点投資ができた、地域の実情に合った事業の優先順位付けができた、府省の縦割りがなくなったことにより効率的な予算執行が図られた等）の事例があれば、代表例を3例挙げてください。

主な回答：

- ・府省の縦割りがなくなったことなどにより、必要な行政分野に重点配分できた。
- ・震災等を受け、緊急性・重要度の高まった事業や防災・災害対策に優先配分できた。
例：津波対策、連絡道路の整備、緊急輸送道路の耐震化、耐震性に劣る橋梁の震災対策、災害が予想される道路の防災対策、近年被害を受けた河川の改修、老朽化したため池や排水路等の改修、エネルギー対策
- ・年度途中の浸水被害や土砂災害により優先度の高まった事業箇所、その他の箇所から財源を振替えることで、迅速な対策実施が可能となり事業効果の早期発現が図られた。
- ・震災により予定通り事業が進められない箇所から、より重点投資が必要な箇所に財源を振り向けることができた。
- ・入札により予算額から所要額が減少した事業に係る財源を他の府省の事業に振り替えることができたため、効率的な予算執行を図ることができた。また事業工期の短縮にもつながる。
- ・用地取得の難航により年度内の事業執行が困難となった箇所から、他事業箇所へ財源の振替を行うことにより、繰越の抑制が図られるとともに、振替先事業の事業効果の早期発現が図られた。
- ・離島など従来地帯別であった予算について優先度の高い箇所への重点投資及び地帯間の予算の融通による効率的な事業執行が図られた。
- ・従来は国との事前協議が必要であった箇所間での予算融通が、県の判断で機動的に行えるようになった。

など